

聾学校小学部の個別取出し学習の状況について

正会員 ○ 平根 孝光*¹

聾学校の建築計画に関する基礎的研究7

萩田 秋雄*²

□はじめに

聾学校小学部においては、学習指導要領で示されているように、特別領域として養護訓練が加わる他は小学校の教育に準ずる教育が行われている。その学習形態においては、学級単位での学習を基本とはしているものの、個別取出し学習という形での個別指導も行われているのがみられる。^{x1} 個別取出し学習とは、発音発語等の指導を行う養護訓練を含む教科学習時において、個別に指導することが必要と思われる児童1人を、もう1人の教員が、その学習集団とは別の場所で、個別に指導を行うものである。

本稿は、聾学校小学部における個別取出し学習の状況についての概報であり、聾学校小学部の建築計画に資することを目的としたものである。

□調査概要

全国聾学校107校のうち、小学部を設置している聾学校全校(98校)を対象に、個別取出し学習の状況を含む学習形態についての実態調査を調査票記入方式により行った。調査は平成7年7月で有効回答率は82.7%(81/98校)である。

□学年別の在籍状況

分析対象校の学年別でみた単一障害・重複障害別での在籍状況を[表-1]に示す。

単一障害では、学年の在籍人数は0~21人までであり、各学年で若干の増減はみられるが、全体としては学年平均3.3人となる。しかしながら、個別取出し学習の形態を取る必要のない学年在籍人数1人以下についてみ

ると、3割強を占めているのがわかる。一方、重複障害の学年在籍人数は0~5人までとなっており、その中でも学年在籍人数1人以下が8.5割強と大半を占めている状況にある。

□個別取出し学習の実施状況

個別取出し学習を実施している聾学校は、上述の在籍状況のもとでも7割強にみられる。[表-2]

また、この個別取出し学習の教科別での実施状況を学年別に示すと[表-3]のようになる。

教科別では、社会、理科、生活、道徳、特別活動にも若干みられるものの個別取出し学習を行っている学校は少なく、大半の学校では国語、算数、養護訓練の3教科に

[表-2] 個別取出し学習の実施状況 (校)

分析対象校数	実施している	実施していない
81 (100)	59 (72.8)	22 (27.2)

* () は%。

[表-3] 教科別での個別取出し学習の状況 (校)

	国語	社会	算数	理科	生活	道徳	特別活動	養護訓練
1年	15	1	12	0	0	0	0	15
2年	20	1	20	0	1	0	0	25
3年	14	0	12	0	0	1	0	16
4年	20	5	16	1	0	2	2	15
5年	13	0	11	0	0	0	1	14
6年	18	4	18	1	0	0	2	16

*音楽、図工、家庭、体育の教科については各学年ともなし。

[表-1] 分析対象校の学年別在籍状況

重複障害						学年	単一障害																							
5人	4人	3人	2人	1人	0人		0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人	17人	21人						
-	-	5	3	1	7	5	6	1	1	1	3	1	2	9	1	3	8	3	4	3	1	2	1	-	1	-	-	-	-	
1	2	2	1	3	1	9	4	4	7	1	2	1	5	8	7	9	3	5	5	2	3	1	1	1	-	1	1	-		
-	1	1	7	1	6	5	6	3	9	1	8	1	4	1	2	1	2	1	0	1	1	2	-	2	-	-	-	-	-	
-	2	2	8	1	8	5	1	4	1	3	1	3	1	7	1	3	1	0	4	1	1	6	1	-	1	-	1	-	-	
1	1	2	6	1	7	5	4	5	1	6	1	6	1	1	1	5	1	1	5	-	1	-	-	3	2	-	-	1	-	-
-	-	1	8	2	7	4	5	6	1	2	1	4	1	5	1	1	9	8	3	2	3	1	1	-	-	-	-	1	-	1

On the taking-out learning of elementary section in the Deaf School
A basic study on architectural planning for the Deaf School 7

HIRANE Takamitsu et al.

において個別取出し学習が集中して行われているといえよう。なお、音楽、図工、家庭、体育の教科では各学年とも個別取出し学習はみられない。

□国語、算数及び養護訓練での

個別取出し学習の指導回数

つぎの〔表-4〕は教科の中でも個別取出し学習を行っている学校が多い、国語、算数、養護訓練の3教科についてその指導回数をみたものである。

教科別でみると、国語及び算数の2教科については、個別取出し学習の指導回数が週数回の学校も若干はあるものの、殆どは毎回の授業で行われている。また養護訓練においても、週数回の学校が国語、算数の教科よりは若干多く、月2回という学校もみられるものの、やはり毎日が最も多いものとなっている。

このことから、国語、算数、養護訓練の3教科については、個別取出し学習を行う場合、毎回行われることが多いといえよう。

□国語、算数及び養護訓練での

個別取出し学習の主な指導場所

つづいて国語、算数、養護訓練の3教科における個別取出し学習時の主な指導場所について〔表-5〕示す。

〔表-4〕国語、算数及び養護訓練における個別取出し学習の指導回数

	国 語		算 数		養 護 訓 練		
	毎 回	週 数 回	毎 回	週 数 回	毎 回	週 数 回	月 2 回
1年	14	1	10	2	10	4	1
2年	19	1	19	1	20	4	1
3年	14	0	12	0	11	4	1
4年	19	1	15	1	11	3	1
5年	12	1	10	1	9	4	1
6年	18	0	17	1	11	4	1

*週数回とは、週1~3回。

個別取出し学習時の指導場所については、国語及び算数では個別指導室が、また養護訓練では養護訓練室、個別指導室の使用が多くなっている。しかしながら、他に教室コーナーばかりでなく、空き教室、理科室、集会室、音楽室、教材室、資料室といった部屋での指導も行われており、このことから個別取出し学習時の指導場所が不足していることが伺えよう。

□まとめ

これらのことから、聾学校小学部における個別取出し学習の状況をまとめると、多くの聾学校において国語、算数及び養護訓練の3教科を中心に、個別取出し学習という形での個別指導が行われており、その指導回数は毎回行われることが多いといえる。

このような個別取出し学習の実施状況の中で、その指導場所については、専用の個別指導室、養護訓練室だけでなく、教室コーナー、空き教室、理科室、集会室、音楽室、教材室、資料室等の部屋での指導も行われており、いわば指導場所を探しながら個別取出し学習を行っているといった状況もみられる。

また聾学校小学部においては、児童が保有する聴力を集団補聴システム（磁気ループ補聴システム等）及び補聴器を活用して指導する方法も主要な教育方法の一つとなっている。そしてこの個別取出し学習時には、同時に二つの学習集団が形成されることになり、教室コーナーでの指導の場合に混信という状況となることも予想されることにおいても、この個別取出し学習の指導場所の整備を図ることが重要となるといえる。

本研究は、平成7年度文部省科学研究費（一般C代表平根孝光）を受け行った。調査にあたっては、全国聾学校長並びに先生方に多大なご協力をいただきました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

注
文1 平根・萩田／聾学校の学習集団について／日本建築学会大会学術講演梗概集／1995

〔表-5〕国語、算数及び養護訓練における個別取出し学習時の主な指導場所

	国 語				算 数				養 護 訓 練				そ の 他 の 内 訳
	個 別 指 導 室	養 護 訓 練 室	教 室 コ ー ナ ー	そ の 他	個 別 指 導 室	養 護 訓 練 室	教 室 コ ー ナ ー	そ の 他	個 別 指 導 室	養 護 訓 練 室	教 室 コ ー ナ ー	そ の 他	
1年	6	2	5	2	6	0	5	1	5	6	1	3	空き教室、理科室、図書室、パソコン室
2年	10	3	3	4	11	0	5	4	7	9	5	4	空き教室、理科室、音楽室、図工室
3年	7	1	4	2	4	0	6	2	5	8	2	1	空き教室、理科室、教材室
4年	10	1	6	3	7	0	5	4	7	3	2	3	空き教室、理科室、音楽室、教材室
5年	5	0	2	6	4	0	3	4	6	3	2	3	空き教室、集会室、教材室、資料室
6年	8	2	2	6	8	2	1	7	6	6	2	2	空き教室、音楽室、集会室、パソコン室

*1 筑波技術短期大学 助教授・博(工) Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tukuba college of Technology, Dr. Eng
*2 筑波技術短期大学 教 授・工博 Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tukuba college of Technology, Dr. Eng